

畫本西遊全傳

初編

六

~13
3843
5



門 3843
巻 5

繪本西遊記初編卷之六

前章之下

以時孫行者大さの美ひ你等我一棒とて試よとて耳の中
 より鉄棒と引出せば六人の賊等大さの驚き我先にと逃る
 きこほ者ともと吸つて追追り如意棒と振て一人を殺すべ
 打殺せり三藏是を刀と眉とさるるも以前徑の賊原悪行の
 者ともとも悉死刑に究者らあるべし你ら人を都る是と打殺や
 行者の曰く吾今他を殺さども他却く我師父と殺さるべし三藏の
 曰く我の出かちうたといふ人殺さるること決まらんを殺さるること
 と你今既に佛門に入るかんのどく暴悪と改めども善果を得

繪本西遊記初編六



孫 三 奘 法
辭 藏 受 器



觀音

繪本西遊記

悟空

三藏



繪本西遊記

事是未だ一行者是をばてん怒り我西天に至りても善果
を得ることなくん師父に列もく是より悔りまらばと云ふ早
身を翻く虚空に揚る東の方へ飛来り三藏とせんごとく頭
を仰ぐ東をまらりまらば行者の形ちのたえされ行李とて
馬に背せまらり韁繩とて心不そくも出往りけり前面より
一人の老女に綿衣と花帽ととてげまらり三藏とて曰
長老何因てり此多人や三藏の曰く貧僧へ東土大唐皇帝の勅と
て西天に往く佛とて経と需人と欲とる者なり老女の曰く西
方如来の在大雷音寺とて此のまをまらり事十萬八千里長老只
一人いざるかこれ行者も人の三藏の曰く前刻きて從者一人は俱
るもい者生得頑くと唯今吾汝控て東方へ飛来りたり

老女の曰く吾も幸ひ東の方へ往者なれば所弟子に違ひく
悔くもまらばとて又は綿衣直襪とて取金花帽とて長老に送
りて人の所弟子有りまらば直襪を着せ花帽といふかせ我
教ゆる咒と唱へまらりて悪事とまらりまらばまらりて三藏の
耳ににとてを定心眞言の咒文を授け長老固く心に秘して心
をばらりまらりまらりれは咒文と繫糸結咒と中ゆくと勿心金色の光りと
身より放ち東の空へ花まりぬ三藏とてて観音菩薩の眞
言とまらりけりまらりといひりがく香を焼て礼ねし直襪帽子の二
品を包袱の中へはくまらり行者の回ると待居終りけり行者の勛斗雲
に亦乗り只一花に東海龍王の許に至る龍王行者が来るを見く
礼とて曰く大聖のふしてうくは難と免を授けり行者の曰く

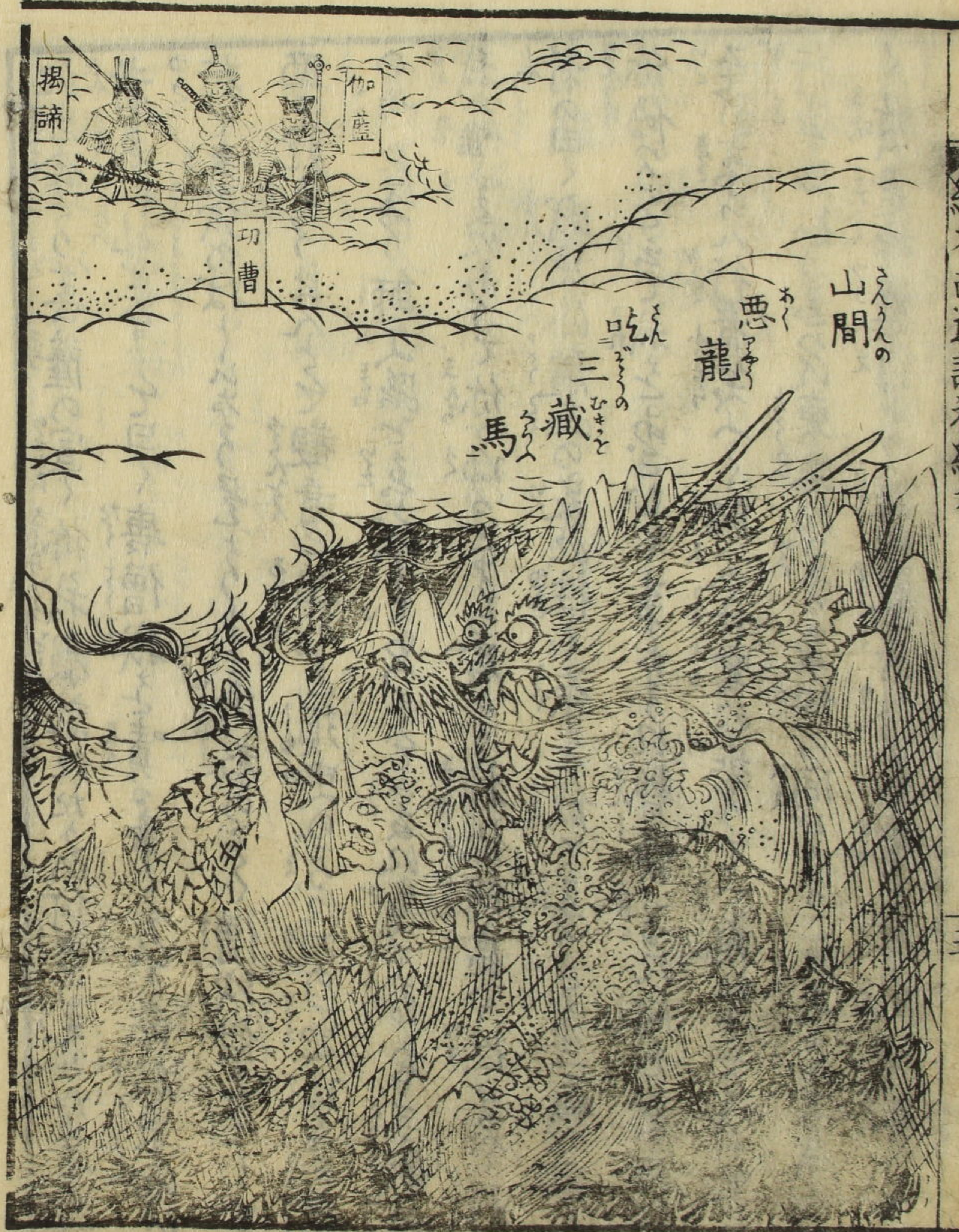


孫再歸
 孫 英 孫
 英 咒 縛
 孫



我觀音菩薩の勧めに依て唐僧は西方に至徑ととりて
 け故を以ていすし我免れり龍王のいふ大聖邪と改め正歸
 何事の收びる是にまゝ入るる大聖西方に至らば却て東海に
 来る何の故ぞや行者の曰くかの唐僧をせめて吾前徑の賊と
 お殺したるを以て喃と我を吃りぬ故お授るるまにまねり
 吾再び水簾洞に入快れたのまゝんと龍王の曰く大聖大聖
 あやまれり今も簾洞に居りしやうく妖仙の魁ふして遂に
 正果を得るの期あるべしや観音のおくまゝ唐僧を
 具して西方にいら全き善果と得るべしとありければ行者は
 むきてすの半按し居るる忽席とまゝ吾再び唐僧と供し
 て西に赴くべしと龍王に別れ罷り去るる雲中にて觀音菩薩

に出合ふる菩薩の宣く你我教誨れたる何方へ走りたるや行
 者急に礼とたがひて曰く唐僧我を喰ふ事さびに故東海に
 行てまゝのばいなる是より中と師教のまゝ僧供を以て
 西天に至るらんとして觀音と相別し須臾の間に向のてゆく三藏
 の前に来り師父路とまゝとわらふてまゝに居るるや三藏曰
 我唯宴にありて你が歸るとすら居るる柝你何處へ往らや行
 者の曰く我東海龍王の家に往茶を飲てまゝと三藏の曰く
 你偽りとて我をまぎむく事なれ暫めのあるに何ぞ東海に
 至る来らば行者笑へく師父吾雲に垂りて一花に十万八千里と
 行事成なりとて東海に至る事何の間どうこれあらん三藏曰
 く你是神通とほなり既に龍王の件を茶と吞み吞れり吾いふ



在て甚ど餓う 你包袱をひらき中なる乾飯をとり出し吾に
 あくよよ行者かこまり包袱をおひらきかの直襪を脱ぎ
 行者両品をアツク 同て曰く師父は衣帽の東土より持来りたる
 三藏の曰くまゝと我初雅め着せし 帽子直襪なりけ帽と戴時
 習ふ後して襪と讀直襪と着せし 聞きてこれを教ふる行者の曰く
 師父は二品を我に賜らんや三藏の曰く是れ吾身邊の寶具なれ
 とも你は附屬しよる 匠行者先身に直襪を着し 頭に帽子と
 戴きたるは此三藏老女の教ふる緊箍咒を口の中へ唱へし 行
 者勿地に倒れしといふ 何とて頭の痛むと云ふは 痛むやくと
 叫び泣くかぶり 帽子と粉微塵に列裂破れし中へ一條の金箍取
 取ると不下 垢ども 不断金箍より根を生しと肉と俱にはらなる

たり三藏も不思議におのひにを閉て咒を止めし 行者頭疼
 痛極く治し 恰も平常の如く 寢に於て行者大きに怒り 耳の
 中より如意棒を引出し 三藏目づけ唯一おとりの上ぬき 三藏又
 口中に咒を唱へし 持する鉄棒と大地に打撃ある 痛やく 師
 父のるさせまゝと 声を上げ 頭をかく 湯後と三藏の曰く 你
 今より心と改め我教をすしこれと教ふる 行者の曰く 我敢く
 師父の命を守りし べし さらふてもは法の何んより 授けむしやと
 同く三藏の曰く 向一人の老婆来りて 我におくし 行者是
 と申しては 老女いかるべ 觀音菩薩ならん 吾と師父のこし
 ありたる 方便の計をこれあぢん 何ん本は 後の師父の教をそ
 ひきや 及まず 師父もまじ 憐れ 戒垂し 咒を念へし みるれ



さて三蔵を馬にかきのせ後、又着て西方へいそぎつら

蛇盤山諸神暗佑

鷹愁洞意馬收韁

さうはづの三蔵の悟ゆと俱に夜日とくらひ西の方へ歩きつゝは
蟬月をみれば夕に細風凜々いとさき山間の洞の中より忽ち
龍あらまを出浪をひらぐて跳る行者を捉えんと忙三蔵を
馬より抱きおろし高き崖の上は居らしめ耳の中より如意棒と取
出し提ぐ旧の所小まをえれば師父の乗り白馬龍と俱に在り
知れ度只行李のそ其所より行者をまきのあやしむと三蔵
にや々る長今の龍とお殺さんとぞんしはるも誰か討らん師父の
馬を吃ひて洞の中に隠れりと相見し行李のそみりたりて其

再びかゝるまありは悪龍をたつひ出師の馬とさうと
や匠暫くはまの待せ後と云捨て出れを三蔵杖をさて
とめまひ你かゝるま行る路への龍出まやと我を吃ん心
はうがに你決まをと龍を事なれと仰る時又忽ち
虚空にまのつゝ長老おそれまふとまわれ我輩まにあつて
急難を救ひまのせん行者是と守てたまもの何者まや
虚空に声して我ら六丁六甲の神五方掲諦四值功曹護駕
伽藍等観音の命とまけ徑を求る人を守護せり行者は
おは是等の神将師父を守まの今心を安しむとてさび
洞のほとり走り行き翻に提海の神通をほひ洞水とひるし
泥あとかき濁せむの龍たまりはと牙をまらして跳り出悟ゆと

馬 龍 柳枝撫 目前化



觀音



揭諦

悟空

我々事半時ぐらんごとの大龍カガレかまひぐらんやあひん
身とまどて小陀とあり州の中にかられろ行者いよく多う大
声を發し唵字咒語を唱へ土地の山神と呼ぶ龍の在所を
るゆるふ山神とくやろふは山の蛇盤山とほけは洞と
鷹慈洞とやてむじより曾く邪神住とは原来洞あり底清く
まゝ鴉鵲のたぐひおのれが教を群鳥とありひるくあり底に偏る
とろく鷹慈洞の名ありる清き洞ありれは悪蛇の住を死
いられなり前年觀音菩薩一條の業龍をば洞に放ち徑と
取る人を待しよる今觀音菩薩を請ひ来ればは終か心ち
生まらん行者是とぞて南海にきり行き觀音を請来らん
といはぬ空中に在し金頭揭諦の神ひて曰く大聖志ぐらん

待し我南海に行き菩薩を請し来らんとて南とほけて死に
まゝの暫時の内に觀音といふよひ蛇盤山にまわり行者菩薩乃
まゝありまゝをたてて忽ち罵く曰く你は是大慈悲の教主なり何ぞ
我あざむき帽子と戴らせ唐僧に聚縁縁兄とやらん兄とありへ
我頭をを疼まむるまゝの何の慈悲とや菩薩の曰く你仏門
の教つゝ順ぐらん若かとのぞくまゝれい再々び悪事とたつて天上と
開とて是你に正果と得させん我慈悲をより行者曰くおんば
今は洞あり悪龍と放ち置我師父の馬と吃りしを西方に行き
途と妨ぐらん是も又慈悲をよりや菩薩の曰く我は所に教し置し
龍の西海龍王の子なり向よりは洞底に在る徑を取る人をばめ
しに你其徑を取ることをとるにより渠まづびて馬と吃ひからん

會本西遊記の編

三蔵入里
社得馬
皆具



三蔵

悟空

社

三蔵入里

三蔵入里

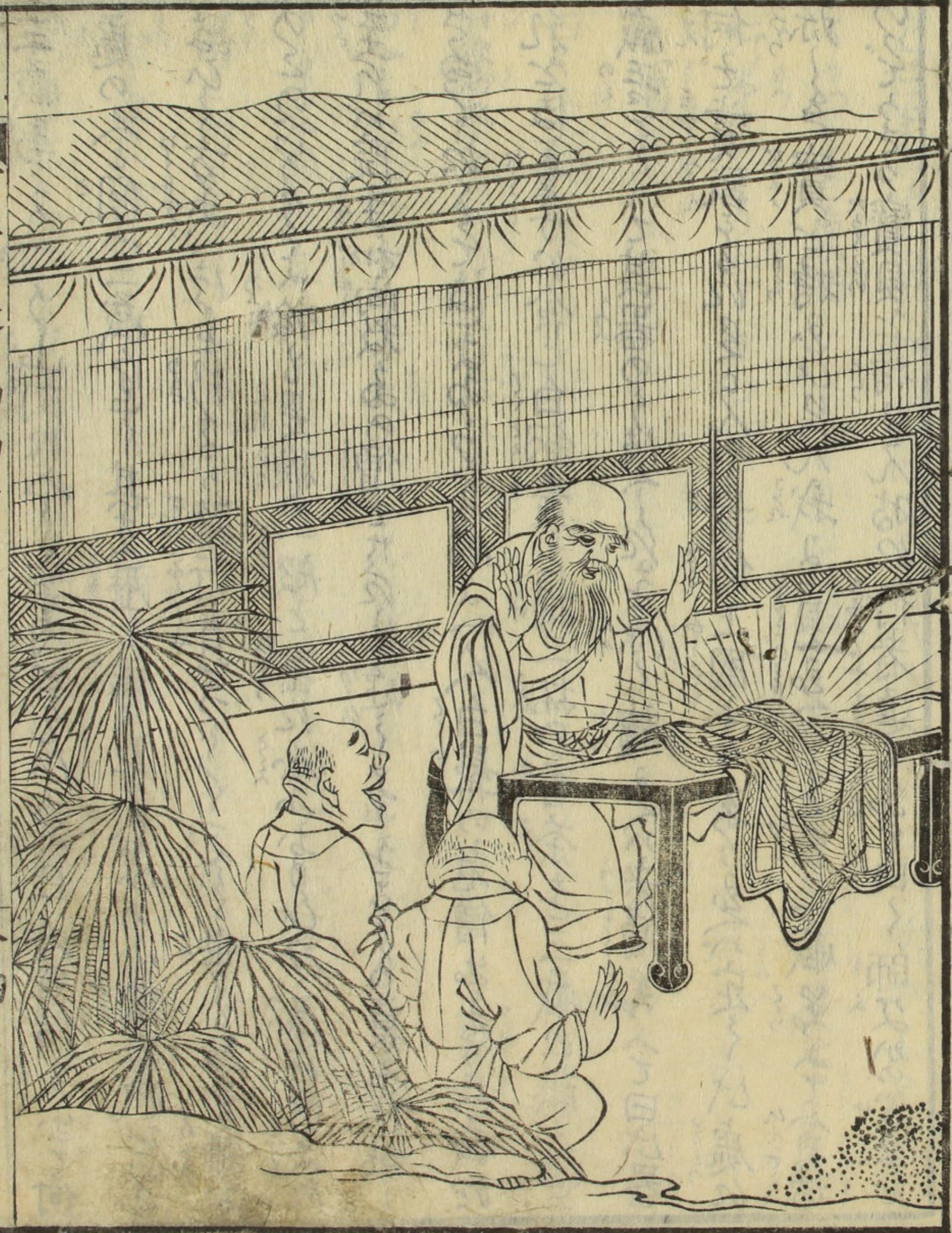
とて揚蹄に命じてかの龍とよび出づ柳の枝とともく龍の渾身を
 掛ひまの忽一疋の龍馬と名づけし柳の葉三つと摘て行者の頭
 後に懸く三根の毛と区けし若大雅に遠く送る時三根の毛其災ひ
 ととく入返し你勉め唐僧と守護せよと命じりて云合りたす
 南の方へ去りて行者跡と礼ね龍馬と牽て三藏の前に
 あり車の子細をほまびらるるおほまの三藏南に向ひ三おしや
 馬に乗りて洞とほり山を過ぎ西に望んで馳せし紅日西に沈て天
 色ととん晩さんる路の傍に一つの廟あり里社祠とて大字と書て
 門にけたり三藏馬より下て門内に入るに内は一人の老翁あり
 三藏師弟とてて齊飯と設け一夜を宿せし翌朝馬乃鞍
 害其命皆具とて出て三藏にあて俱に送て門と出るとる

忽然として老翁の姿と失く時よ空中に声あり我の落迦山
 の神なり観音菩薩の命を受け馬の皆具と典ふたりと云換て
 雲井とるるを去りしれ三藏忙ぎ空に望まて礼ねし馬
 鞭うら西の方へ多きま

観音院僧謀寶貝

黒風山怪竊加夜夜

おと玄奘三藏孫行者の西の方へ西月余り多きまに己の春の
 気色のどやん霞たまびき本草の色翠と帯て旅のありれと
 ちりりたるや西番哈必國とてきて遙け山の凹の所に樓閣建て
 けり寺あり三藏の寺に一夜を宿せしとてか
 るりりるるに正殿の屋上に観音禪院と大字とて額をかかけり



觀音院
中展觀
袈裟



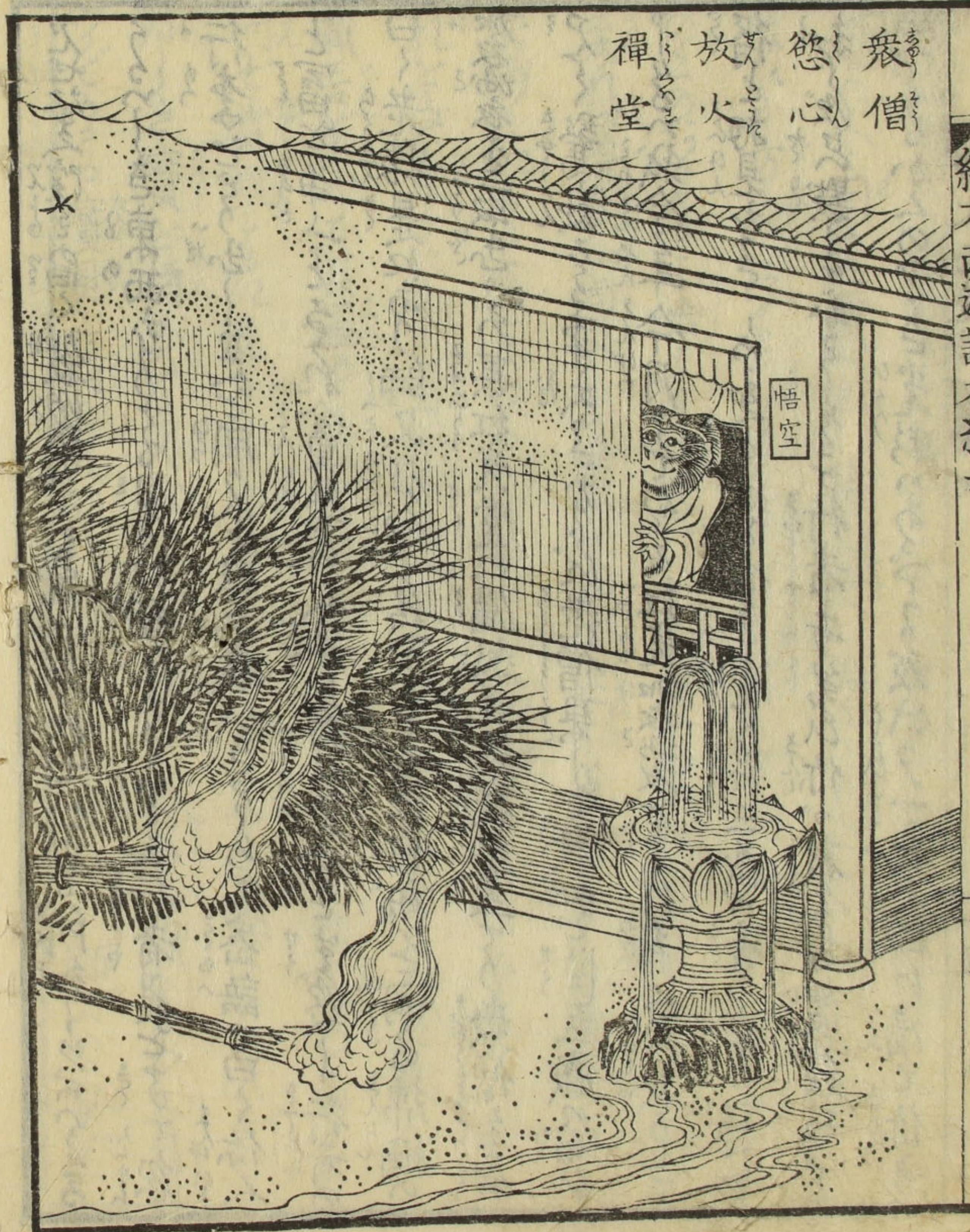
三藏馬より下り山門に今案内とをひき一人の僧出て何
處の人と問ふ三藏はく其来歴と語りたまひかの小僧三藏といふ
まじく方丈へはまはるるが孫行者とてくアと世もかゝる醜お
のこのけりたるよ恰も是推の一般と密にふおひつゝ遂に方丈に
至れば院主和尚教ふの僧とての出迎へ茶をとり菓子と献し
さめくはもてはまおらるる時一人白髯の老僧もまゝ三藏の
礼とは童子の令じ白銅壺を提三杯の香茶を三藏の献んび三
藏吾とて其器のうはくはをゆく讚むい老僧笑へて曰は器
何ぞ賞翫するに足らんや貴僧上國より来りまは定くは處に
跡なき寶と持むひらん我も一見むくと云三藏笑ひて貧僧
ついでうらる寶貝と持らん時に行者進み出て曰く師父かの袈裟と

見せたまは院の向く袈裟衣のどまはけ寺に七八百も所知りといふ
うらりき東西方より見るに望みかといと云行者是とまて忽
行李ととり出し具と用んと云三藏ひきこめて密語て曰く你と
と雷と争ふとまられ貧僧の人は是見ば必悪心を生ぜし行者の
曰く老猿是にあり師父放を後とと遂に包袱を用うの綿襪の
袈裟衣を取出せ其紅光堂に滿彩色の庭に盈てり衆僧をま
んく驚歎する事大と云はる老僧果して教ふとけ三藏の向ひ
中より我今年今月やぞかる紅光袈裟衣と云は希ふ一扱して
得と相見かきふととを合せてをるに三藏のまはるる詞を
おと只黙々おらるるが行者亦笑ひ你が教ふの袈裟衣はつと
ついでもかこのどき光彩ありあづつと夜は一夜の師に請て你

會本西遊記初編六



衆僧
慾心
放火
禪堂



衆僧慾心放火禪堂

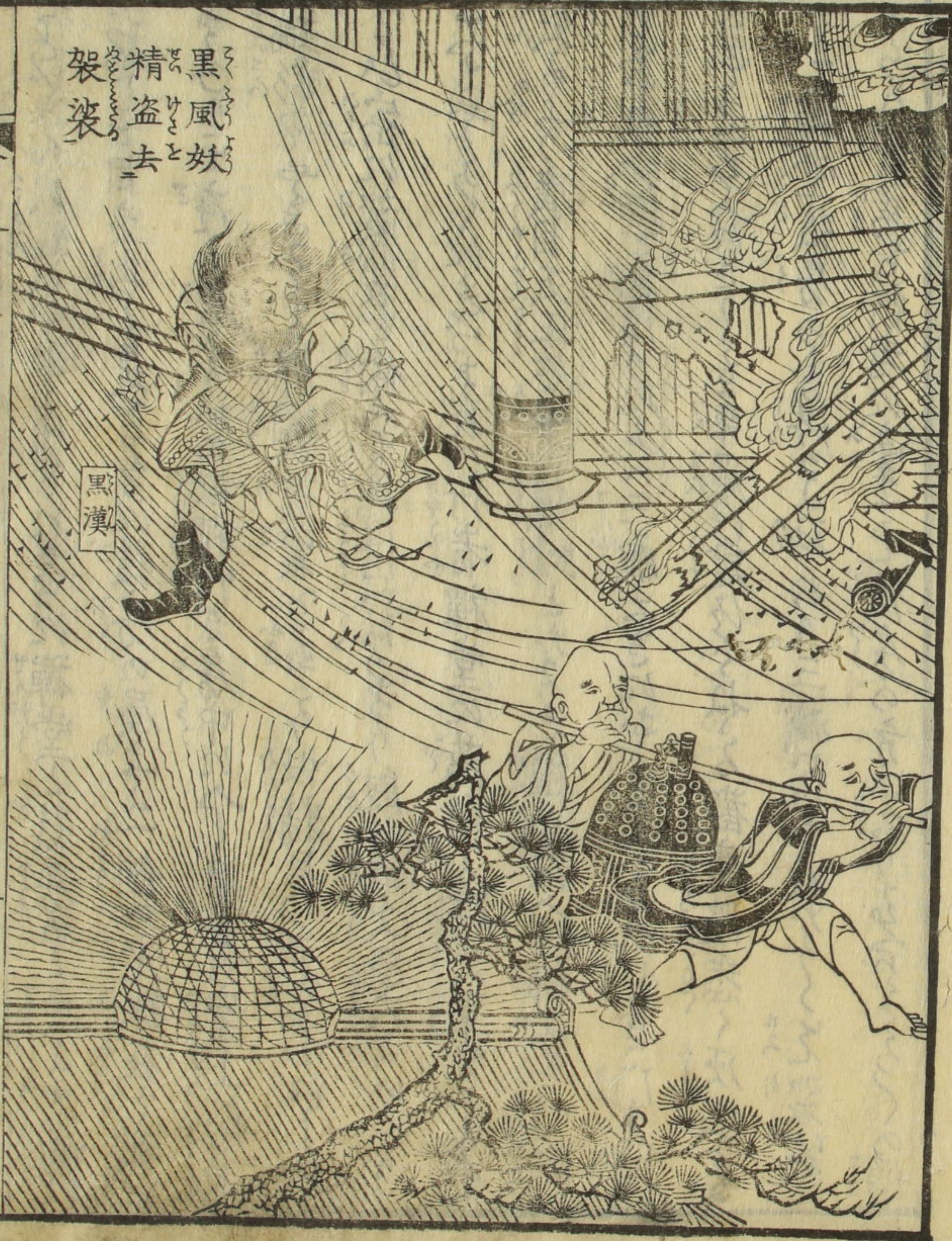
借座老僧去きよよろこび遂に後房に今く燈のをもとん彼袈
紗をひきき我う家くるじき袈紗衣を着るなるの世の望まはる
るんとてさめぐと位られが廣謀とりと和尚とてと出老僧さばり
は袈紗衣をさそへるあぶ計をいひ集ひてさへ今客僧接の
方きくして禪堂の中によく寐より多に堂の四方へは木新を積上
火を付く焼殺さばは袈紗衣自然老僧の東方とるるべし老僧
是をさめてかざりたうく收ひはたうりてたれをぬたうりてと衆僧に
命とて其用意とほしてりるけは悟空の三藏と俱に禪堂の内
睡り居りしが外面に人音さうりきとやのむあやしと忽ち
身をさると一の蜂とあり牕の回うりしうく親ふたきの僧ども
袈紗衣をはきて禪堂をやりんと修行者是とて果して師父の

言のどく我袈紗衣ととらんと敷して袈紗衣を敷くはるよ
よりく我も中と他が計とてと計とて多んと直に天の馳登
廣目天皇の許にきり行辟火單と借來り禪堂の上は打ちひ
其のの後房の屋上に座して袈紗衣と守護く火の燃ゆると待お
たりとるくの僧徒行者がかるるは術にりともまは禪堂乃
廻り火を放てば行者忽ちまた火をまひき出さく火燄四方り
散して本堂方丈回廊鐘樓とてく燃上り防ぐべきやうあり
これの僧徒皆にりてさき器財衣履を拿て猛火の中は逃去り
おめきさげふありさぬの月もあてられぬりりさぬなるるに觀音院と
南へ去る事二十里ふして黒風洞とふ所あり洞の裡は一個の妖精有
け火をとりて火を敷いたるやと雲に騰て觀音院に來りてふれは諸堂

黑風妖
精盜去
袈裟

黑漢

繪本西遊記



繪本西遊記

こゝろく火燭の中いふもれたるに禪堂と後房のより更く火燭に
しやしと目を止く是とるに後房の屋上より一個の老猿在る風を
まひきて座し居りかの妖精忙き房中へく見まの案上の霞光
瑞彩かやきこる綿欄の加衣衣とるなり妖精是とんをふれより
こひ密に加衣衣と偷んで黒風山へ降りり既に五丈の天より
火もやうくにまぶされば行者禪堂に蔽ひたる辟火罩をとんとて
天より廣目天王に返り復蜂とたうて禪堂に師父を咬記
て事の子細と抱ゆるぬきの三藏大きにおどろきまひ忙ぎ門を開
きそて入るにこしも華嚴に建はねる観音院悉く灰燼と
して禪堂後房のより焼くは砂なり三藏のりきれなうとて加衣衣と
とらんとして馬と行者に牽せて後房の方へありとるがとるくの僧

後三藏師父とんとて大きき驚き一齊に老僧は是神人なりかる
火火のいせとて曾て焼死せむとなく加衣衣と返りまんとやにぞ老
僧も身に驚きさうの加衣衣と返りたり行りやさうに見えは
今ハ唐僧に逢て何ん分とどきやと遂に柱のえんまよりて顔と
砕き死よりる行者はとやめて大きき怒り必定下僧徒がかりし
たるに遠ひまうとて焼死り箱籠と查とれども曾て加衣衣の由く
へまんとて三藏は体をさうとて源く行者をうらまへ我實貝と根に
他人に借ある今何のはりてらるやとなく加衣衣とるひまもん
ば我必と監系箱籠と唱へ返り行者ゆて大きき懼れ師父かきま
け加衣衣とたづひ出りやべとて衆僧にむひ問く曰くはちうれ
邊りに妖精の住まのまきり院王の曰く是より二十里半り南に

趣黑風洞
悟空乘雲

悟空



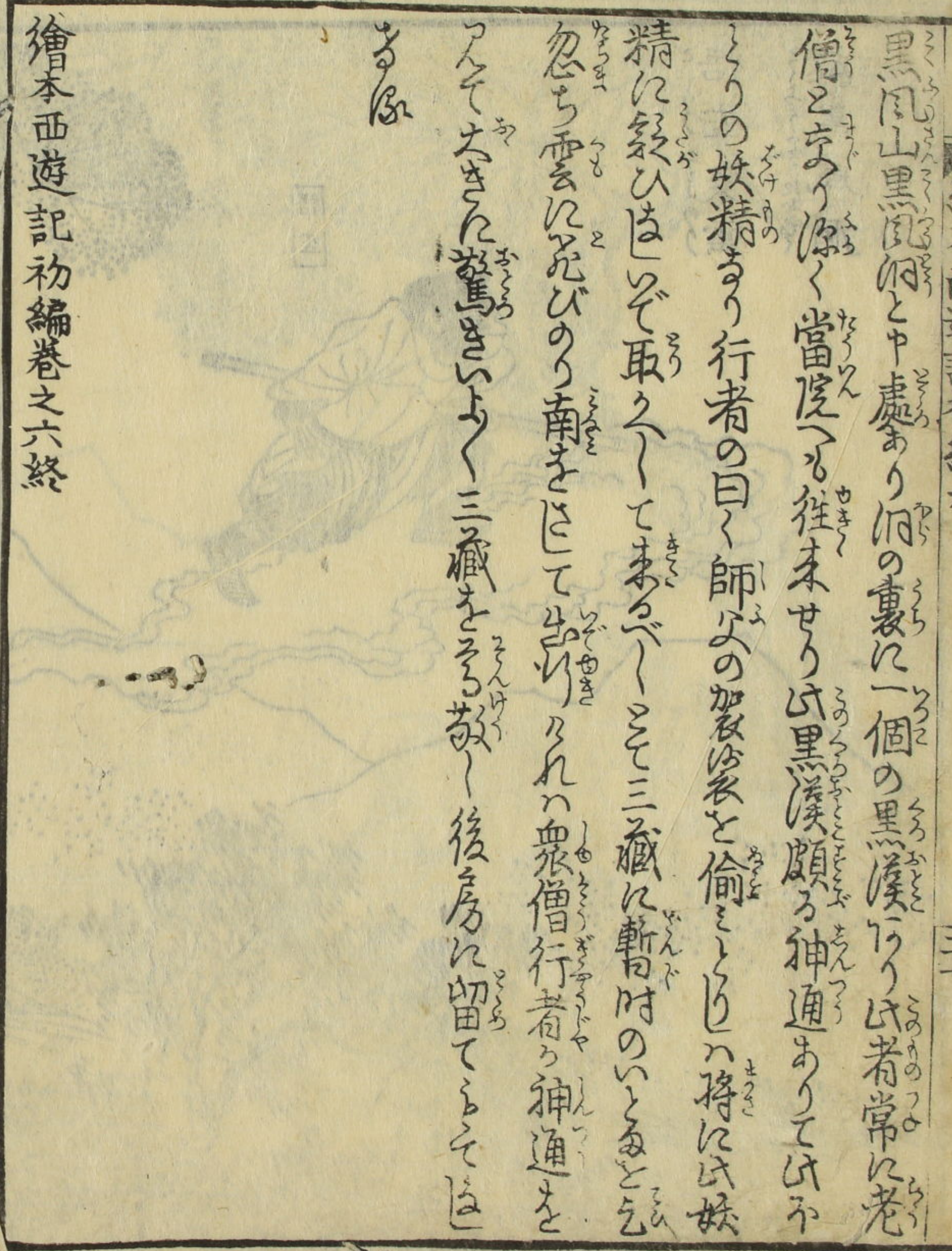
曹八百里記

孫悟空

十九

黒風山黒風洞と申處あり洞の裏に一個の黒溪有りは者常に老
 僧と云ふ源く當院にも往來せりは黒溪頗る神通ありてけり
 ころの妖精あり行者の曰く師父の袈裟衣と偷とりし將に妖
 精に疑ひはしぞ取てきてあるべしとて三藏に暫時のいとど乞
 忽ち雲に死びのり南まじて出りぬれは衆僧行者も神通を
 みて大驚きいよく三藏を敬く後房に留てらるは
 事象

繪本西遊記初編卷之六終



Aged Kewannon
and Crown of Thorns.